

# 課題名：自給粗飼料の確保を目指した「トランスバーラ」の普及

所属名：大島支庁沖永良部事務所農業普及課  
発表者名：大久保剛

## ＜活動事例の要旨＞

自給粗飼料の確保が急務となっている中、栄養繁殖系牧草である「トランスバーラ」の栽培者および面積拡大を目指し、管内3町それぞれに、苗供給ほ場を設置した。

併せて現地研修会での採苗・植付指導や栽培講習のネット配信などを通じて、新規栽培者数が増加し、良質な自給粗飼料の増産のための基盤が整った。

## 1 活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由

肉用牛の子牛価格が低迷し、飼料費が高騰する中、肉用牛農家の所得向上には、飼料費の削減が必要となっている。

基幹牧草であるローズグラスは、ほ場の雑草化や「褐点病」罹病による収量の低減、収穫遅れによる品質の低下が散見されるため、新たな牧草への転換が求められている。

数戸の農家で栽培されているトランスバーラは、上記の課題を克服できる有望な牧草であるが、種子繁殖と異なり栄養繁殖が必要なため植付を試みるもののが活着できず栽培を断念する農家が多い。

そこで、普及指導計画における飼料作物の増産確保の目標を達成するため、具体的な計画を立て、進行管理に努めた。また、「トランスバーラ普及拡大方法の検討」として調査研究に取り組み、実証設置や現地指導などを通じて、その栽培特性を見極めながら、栽培拡大に努めた。

#### ◎トランスバーラとローズグラスの収量等の比較

	トランスバーラ	ローズグラス（基幹牧草）
収量性	◎ 4～5回／年	○ 4～5回／年
栄養性	○ 出穂が少なく栄養を維持	△ 頻繁に出穂し、出穂後低下
嗜好性	◎ 細茎のため良好	○ 出穂後は硬くなり低下
草地永続性	◎ 耐機械踏圧性高、緻密な草地を永続的に形成し、雑草発生を抑制	△ 耐機械踏圧性中、3年ほどで雑草繁茂のため、草地更新が必要
草地造成難易	△ 栄養繁殖のため困難	◎ 種子繁殖のため容易

### (2) 計画の策定過程

課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・飼料費高騰</li><li>・基幹牧草「ローズグラス」の収量・品質低下</li><li>・有望牧草「トランスバーラ」活着不良による栽培低迷</li></ul>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



- ・栽培実証による特性把握(植付法、肥培管理、収穫時期、栄養成分)
- ・セルトレイ苗配布、苗供給ほ場設置、栽培研修会（マニュアル作成・配布）
- ・カバークロップ栽培の有利性検証

目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・トランスバーラ栽培技術確立</li><li>・トランスバーラ栽培拡大による良質自給粗飼料の確保 →・「飼料費低減による肉用牛農家の経営安定」</li></ul>
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 普及指導活動の内容

### (1) 活動の経過

年度	取組内容
R 4	栽培実態調査、活着の高い植付法の模索、研修会開催、苗供給ほ場設置（和泊町、与論町）、セルトレイ苗配布による栽培意欲喚起
R 5	知名町苗供給ほ場設置、セリ前研修会による周知、ラミネート加工の栽培暦作成・配布、適正施肥量、収穫時期、栄養成分把握
R 6	現地体験型研修会の実施、栽培講習のネット配信等による波及、カバークロップ栽培の有利性を検証

### (2) 指導・支援の体制

町、家畜保健衛生所、農業共済組合、JA、農業普及課からなる両島の畜産部会員全員で、実証ほの設置、研修会の開催、栽培講習のネット配信のための撮影、新規栽培者への実地指導を行った。

農業普及課内では、畑かん営農担当と連携して、かん水などの効果を実証し、適正な収穫時期・施肥量等の成果を広く普及した。

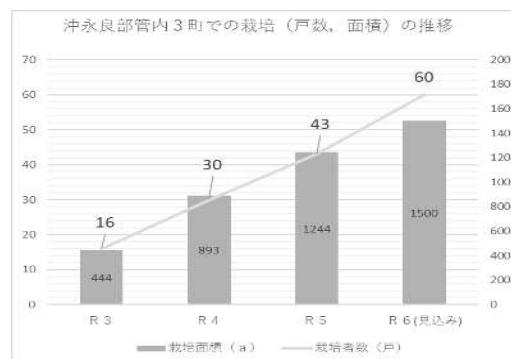
なお、畜産部会員のスキルアップを目的に、部会員参加のもとで苗採取、セルトレイ苗作成、発根までの水管理、実証圃での検討会、新規栽培者への植付実演などを行い、部会員全員が農家への普及指導ができる体制を整えた。

## 3 普及指導活動の成果

### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

トランスバーラの普及推進に取り組む以前は、栽培者、栽培面積ともに少なかった。

しかし、研修会でのセルトレイ苗配布や苗供給ほ設置、現地体験型研修会、ネット配信による講習などを精力的に実施した結果、栽培意欲の醸成につながり、作付けが拡大した。



### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

基幹牧草のローズグラスよりも、高収量で牛の嗜好性が良いため、農家の評価は非常に高い。さらに、ほ場を緻密に覆う草姿を確認した農家は、「ローズグラス畑は、3年後には雑草が繁茂するが、トランスバーラ畑は雑草の発生が少ないので、栽培面積をさらに増やしたい」と高く評価している。

### (3) 地域農業振興への貢献

管内3町では、トランスバーラの普及が肉用牛農家の所得向上につながる有益な取組として期待されている。そのため、各町とも町営の苗供給ほ場を設置するなど積極的に取り組んでおり、今後も地域農業振興への大きな貢献が期待されている。

## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 今後の課題

ア トランスバーラ草地造成時に失敗が多いため、苗の植付けポイント（苗採取と畑の十分な鎮圧等による土壤水分保持）の周知を継続する。

イ トランスバーラは子牛給与に有望であることから給与効果を確認する。

### (2) 今後の活用に向けて

トランスバーラは、奄美群島だけでなく冬期温暖な種子島、屋久島、甑島、三島十島でも有望草種となりうるため、栽培拡大に期待したい。